



教育目標 英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

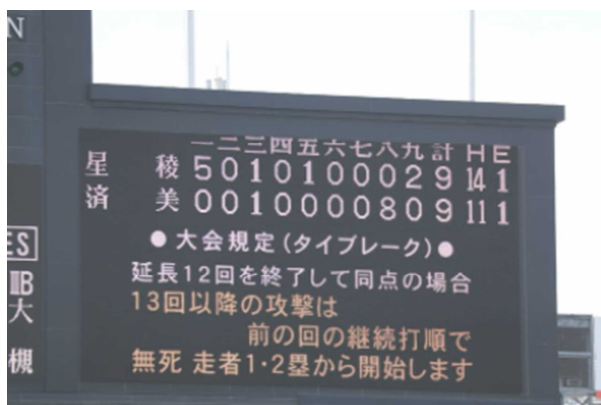
中野中学校だより

令和5年3月18日(月) 発行 第12号

『オワリはじまり』

校長 田代 雅規

2018年夏の甲子園大会の2回戦で、星稜高校(石川県)と済美高校(愛媛)が対戦しました。



チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	計
星稜	5	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	11
済美	0	0	1	0	0	0	0	8	0	0	0	0	4X	13

試合は、今大会から導入されたタイブレーク制に突入し、延長13回裏に済美高校の矢野選手が、100回を迎える夏の甲子園大会でも大会初となる逆転満塁サヨナラホームランを打ち、大逆転で済美高校が勝利しました。

試合後の宿舎に戻り、最後のミーティングで星稜高校の林監督が選手に向かって歌った歌が、テレビの熱闘甲子園で流れ話題となりました。

その歌は、かりゆし58の「オワリはじまり」という歌でした。



かりゆし58は、沖縄県出身のロックバンドで、「かりゆし」とは沖縄の方言で「縁起がよい、めでたい」という意味で、58は沖縄を通る国道58号線を意味しているそうです。



メンバーは4人でその後、星稜高校の卒業式にサプライズで参加して「オワリはじまり」を歌ったそうです。

『 オワりはじまり 』

歌：かりゆし 58

※もうすぐ今日が終わるやり残したことはないかい
親友と語り合ったかい燃えるような恋をしたかい
一生忘れないような出来事に出会えたかい
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい

夕飯時町 人いきれ「ただいま」と「おかえり」の色
せわしない木漏れ日花びら「おはよう」と「さよなら」の音
ありふれた日々が君や僕の胸に積もって光る

※繰り返し

今 動きはじめたものやもう二度と動かないもの
今 灯り出した光や静かに消えていく光
この夜の向こうで新しい朝が世界に降り始めている

旅立ちの時はいつだって少し怖いけど
これも希望のかたちだってちゃんと分かっている
思い出に変わるのはきっと最後の最後さ
笑って「さよなら」を言えたらいいな
またすぐ明日に変わる忘れてしまっていないかい
残された日々の短さ 過ぎ行く時の早さを

一生なんて一瞬さ命を燃やしているかい
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい
もうすぐ今日が終わる もうすぐ今日が終わる
かけがえのない時間を胸に刻み込んだかい



卒業式を2日後に迎える3年生一人ひとりに考えて欲しいことがあります。でも特別に難しいことではありません。卒業にあたり、感謝を伝えたい人には、感謝の気持ちを言葉で伝えて欲しいということです。家族や地域の人、担任の先生や養護の先生、部活動の顧問の先生、友達や先輩・後輩、小学校の先生等、お世話になった人に素直に感謝の言葉を伝えて欲しいと思います。

「ありがとうございました。」「お世話になりました。」等、素直に感謝の気持ちをもてる人は、新しい生活でもきっと周りの人が支えてくれます。

そして、「ごめんなさい」を言わなければならない人には、思い出して謝っておくことをお勧めします。我儘を言って、友達に迷惑をかけた、調子によって友達を傷つけてしまったりしたことはありませんか。そんな友達に「あの時は、ごめんね。」と言っておけば、その後もいつまでも友達でいられたのにと後悔することがあります。卒業すると毎日会っていた友達とも会えなくなり、今言っておかないと、一生言えなくなる可能性もあります

「本当は、やっておきたかったこと。」、これもあと数日の中学校生活ですが、考えて欲しいと思います。部活動や委員会の活動等、中学校の生活の中で、本当はやりたかったけどできなかったことを考えておく事はとても大切なことです。それは、これからの人生の中で、やりたくてもできなかったことに巡り合うチャンスがあるからです。

その時は、思い切って、失敗を恐れずに挑戦して欲しいと思います。「本当は、自分はやりたかった」という思いをしっかりと胸に持ち続けていると、次のチャンスのときに踏み出す勇気となります。

「もうすぐ今日が終わる やり残したことはないかい・・・」 卒業おめでとう！

卒業する3年生へ

『生きる』

副校長 露木 明

谷川俊太郎さんの作品で「生きる」という有名な詩があります。

「生きているということ いま生きているということ
それはのどがかわくということ 木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ くしゃみをする事
あなたと手をつなぐこと・・・」

この後も当たり前の日常の光景を切り取って詩に乗せて表現されている詩です。
後世、谷川氏は「よくできた作品ではない」とコメントしていますが、世の中の人々はこの詩がもつ「生きる」意味の解ともなりうる人間賛歌を称えています。



宮崎駿監督が構想に16年、制作に3年をかけた「もののけ姫」という映画があります。



露木私物のパンフレットより

そのキャッチコピーは糸井重里さんと鈴木敏夫さんのコンビが作成を手掛け、50以上のキャッチコピーの中から「生きる」に決定されました。
ナウシカやラピュタのようにヒーローやヒロインという存在ではなく、ただ惨劇の中に身を置く中心人物2人の姿や時代性を3文字に表し、生きることは人間の純粋さも残忍さもすべて含めての生命活動であり、何をしたら朝日がのぼり、時代は進むという「普遍性」を表現した作品でした。

露木私物のパンフレットより

歌手の中島みゆきさんの35枚目のCDに「糸」という作品があります。

俳優の菅田将暉さんと小松奈々さんが共演した映画としても話題になりました。心切なくもあたたかなラブストーリーです。「縦の糸はあなた 横の糸は私 織りなす布は いつか誰かを 暖めうるかもしれない。」歌全体を通して人と人のめぐり逢いや、人が「生きる」意味についてやさしく語っている歌です。多くのアーティストがカバーを出している曲でもあります。



3つのことから、「私たちはただ生きているだけで意味がある」と私は考えました。
何かを成し遂げようとそうでなくとも、夢をかなえようとそうでなくとも、誰かのために頑張ろうとそうでなくとも、「命」は、ただそこに在るだけで素晴らしいものです。

3年生は中学校（義務教育）を卒業し、自分の人生に責任をもつ日々が始まります。まだまだ未成年ではありますが保護者の方からの支援が少なくなり本格的な自立（精神的、社会的、経済的）まで、一人ひとりの進む道やスピードが違ってきます。苦しい時、悩むとき、どうしようもないくらい胸が引き裂かれる思いをする時、それこそ生きる気力も沸かなくなる時もあるかもしれません。でも、生きてさえいればなんとかなります。どうかありのままの自分を信じてください。そして、誰でもいいので繋がってください。皆には中野中学校という居場所ができました。

公立中学のおもしろさでもある多様な仲間ができました。「一人ではない」ということです。皆の人生は自分で創るけど自分だけのものではないということも覚えていてください。

卒業おめでとうございます。中野中生には、生きることの大切さを忘れないでほしいと思います。

雨上がりのスポーツデー 3月8日(金)



3月8日(金)の⑤⑥に3年生は「スポーツデー」として、体育館ではバレーボール、校庭ではアルティメットを実施しました。

当日は朝まで雨が振っていましたが、日頃の行いの良い3年生に天気も見方をしてくれて、午前中には雨が止み、校庭も乾いたために予定通りに楽しむことができました。企画の生徒は前日の遅くまでチーム編成やスケジュールの確認をしていました。勝敗に関係なく、楽しめた行事になりました。

卒業遠足 TDL 3月12日(火)



3月12日(火)卒業遠足で東京ディズニーランドに行ってきました。中野駅と舞浜駅をチェックポイントにして、班行動で園内を回りました。当日はあいにくの雨で、気温も低かったのですが、生徒は元気に楽しみました。この時期、多くのゲストが訪れており、園内は人に溢れていたのも、なかなか中野中生に会うことができませんでしたが、時々会えた生徒たちはかぶり物をしたり、ポップコーンを食べていたり、踊っていたり(先生方)、満喫している様子が伺えました。

お楽しみ会 3月14日(木)

3月14日(木)⑤⑥に実行委員会が企画した「お楽しみ会」を実施しました。学級ごとではなく学年全体が体育館で盛り上がりました。内容は、「担任理解度クイズ」「馬跳び対決」「先生方からの謝罪会見」「未成年の主張」「中野中アワード」「3年間のまとめムービー」などでした。中野中アワードでは「3年間で最も身長が伸びた人」など、未成年の主張では担任への愛のあるクレームや、提出物にまつわる懺悔など、和気あいあいと時間は過ぎていき、最後は音楽とともに3年間のまとめムービーが流れました。こうやって徐々に「3年生」から「卒業生」へと気持ちが変わっていくのです。

